

ハリケーン (1937)

THE HURRICANE

メディア 映画
ジャンル パニック
製作国 アメリカ
色彩 B&W
時間 103分
初公開日 1938/12
公開情報 劇場公開

【解説】

クライマックスに吹き荒れる暴風雨のシーンが話題を呼んだパニック映画の古典。南太平洋諸島に小さく浮かぶマヌクラ島、今は荒地のこの島もかつては緑豊かな美しい島だった……。島民の一人テランギは酋長の娘マラマと恋人同志。やがて二人は結婚するが、一等航海士の仕事を持つテランギは、間もなく航海先のタヒチで白人と諍いになり6ヶ月の懲役刑をくらってしまう。マラマに会いたい一心で脱走するテランギだが、幾度となく失敗し、その度に刑が重くなって行く。やっとの思いで成功し、カヌーで島に戻ろうとするが、折りしも島には超大型のハリケーンが近づこうとしていた。

メイン・ストーリーとしては青年テランギの英雄めいた活躍に比重が置かれているが、節立てに説得力がなくいささか陳腐な印象が否めない。それよりも脇を固める医者、総督、神父などそれぞれの立場を持つ人達が織り成す人間ドラマの方に魅力を感じる（フォードにしてみれば名作「駅馬車」の二年前で、脂の乗って来た頃の作品である事を考えればこの位当然か）。何と言っても最大の見せ場は暴風雨のシーンで、荒ぶる神の如く大木をも根こそぎ吹き飛ばして行く様などは今見ても迫力十分！

【クレジット】

監督	ジョン・フォード	John Ford
	スチュアート・ヘイスラー	Stuart Heisler
原作	チャールズ・ノードホフ	Charles Nordhoff
脚本	ダドリー・ニコルズ	Dudley Nichols
	オリヴィア・H・P・ギャレット	
撮影	バート・グレンノン	Bert Glennon
音楽	アルフレッド・ニューマン	Alfred Newman
出演	ジョン・ホール	John Hall
	ドロシー・ラムーア	Dorothy Lamour
	レイモンド・マッセイ	Raymond Massey
	ジョン・キャラダイン	John Carradine
	メアリー・アスター	Mary Astor
	トーマス・ミッチェル	Thomas Mitchell